

投資信託にかかる手数料等およびリスクについて

お客さまにご負担いただく費用

ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。

●直接ご負担いただく費用

購入時手数料	申込金額に対し、最大 5.4% (税込) を乗じて得た額。
換金 (解約) 手数料	換金時の基準価額に対して、最大 1.296% (税込) を乗じて得た額。 または、1口 (当初1口=1,000円) につき最大 21.6円 (税込) を乗じて得た額。
信託財産留保額	換金時の基準価額に対して、最大 0.5% を乗じて得た額。

●保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	ファンドの計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に一定の料率を乗じて得た額。 料率の上限は 年率3.93%* (税込) 程度。 ※別途成功報酬等が加算される場合があります。
その他の費用	監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等をご負担 いただきます。 *その他の費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示す ことができません。詳しくは、「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドのリスクについて

ファンドは、株式、債券、投資信託証券など値動きのある証券 (外貨建て資産には為替リスクもあります) に投資しますので基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。リスクの要因については、各ファンドが投資する証券により異なりますので、お申込みに当たっては、各ファンドの「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

ご投資にあたっての留意点

- 上記の手数料等およびリスクは、大和証券株式会社が取り扱う公募投資信託について記載しております。
- 投資信託にかかるリスクおよび手数料等は、それぞれの投資信託により異なりますので、当該投資信託の「投資信託説明書 (交付目論見書)」をよくお読みください。目論見書のご請求は、大和証券のお取引窓口までお願いいたします。

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和証券投資信託委託株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書 (交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

大和証券

Daiwa Securities

〈販売会社〉

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

大和投資信託

Daiwa Asset Management

〈委託会社〉

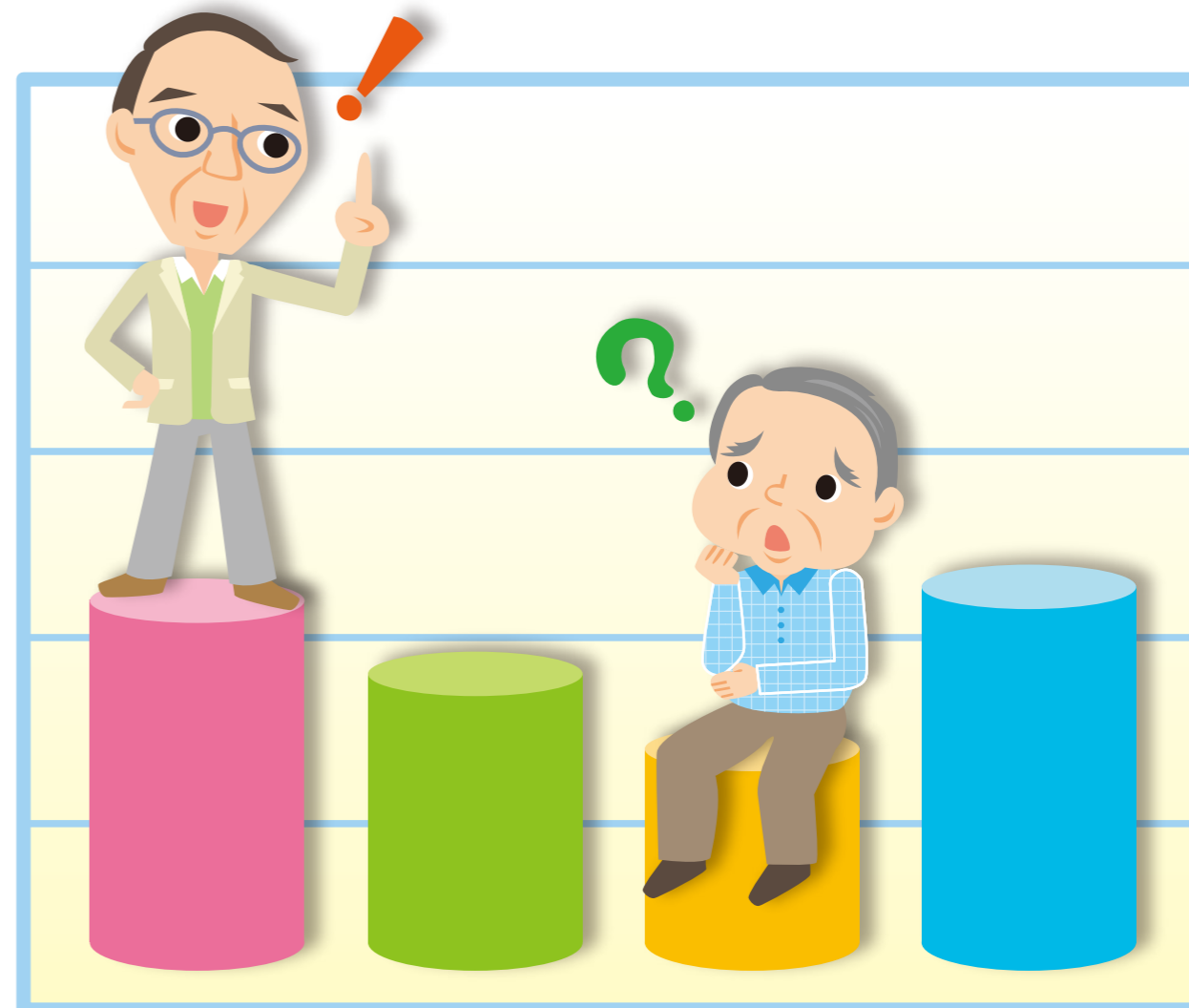
商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

(2014年4月作成)

情報提供資料

よくわかる投資信託ガイド

「カバードコール戦略」



大和証券

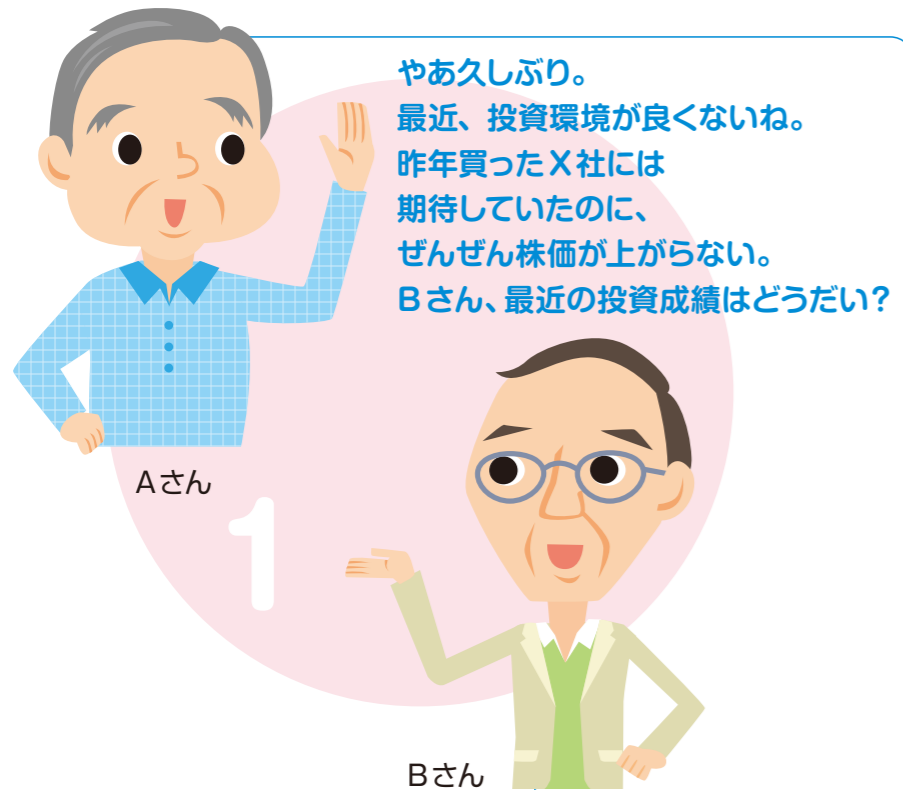
Daiwa Securities

当資料について

- 株式や債券の運用利回りを向上させる方法として、カバードコール戦略と呼ばれる運用手法があります。
- 投資信託でもカバードコール戦略によって新たな収益源を狙うタイプの商品が注目されています。
- 当資料は、カバードコール戦略をわかりやすく解説したものです。このタイプの投資信託への投資を検討する際のご参考としてください。

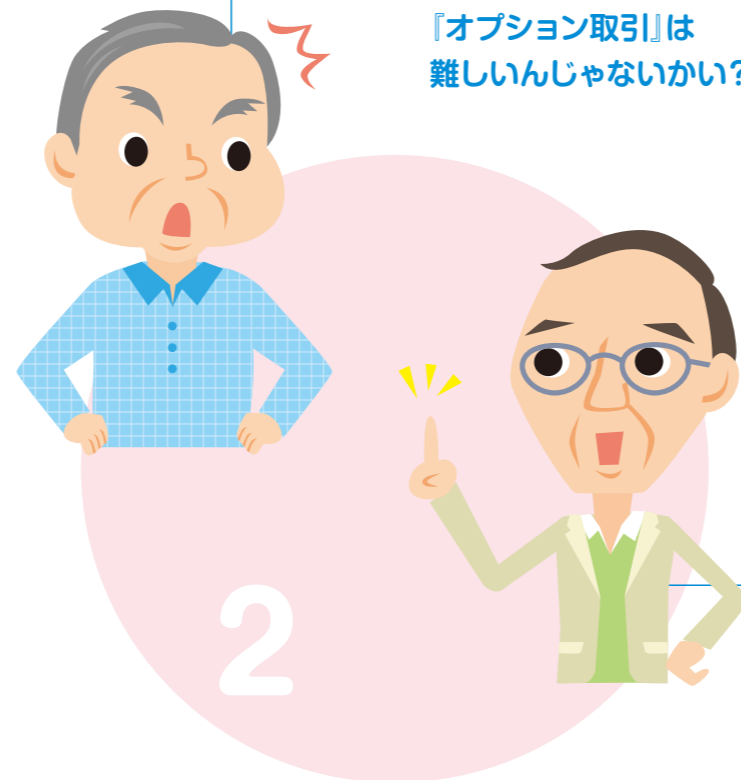
カバードコール戦略って……

AさんとBさんは、ある投資クラブの仲間です。
2人は昨年、X社株を300円で購入しました。
しかしその後、株価は上がったか、下がったかで、なかなか動きませんでした。
そんなある日、AさんはBさんに約1年ぶりに会いました。



やあ久しぶり。
最近、投資環境が良くないね。
昨年買ったX社には
期待していたのに、
ぜんぜん株価が上がらない。
Bさん、最近の投資成績はどうだい?

最近の投資成績? まあまあだね。
確かにX社株は、なかなか上がらないけど、
『コール・オプション』*1を売ったから
『オプションプレミアム』*2の分だけ利益はあがっているよ。



えっ? 『オプションプレミアム』って
『オプション取引』を
やっているのかい?
『オプション取引』は
難しいんじゃないかい?

しっかりとリスクを把握して
おけば、大丈夫だよ。
それに現物株を保有しながら
『コール・オプション』を売る
『カバードコール戦略』だから、
ここ1年のX社株のように
あまり価格が変動しない環境では、
リスクは低いと思うよ。



『カバードコール戦略』??
ちょっと僕にも教えてよ。

さて、Bさんの言っていた
『カバードコール戦略』とは
何でしょうか?

『カバードコール戦略』について知りたい。⇒P.3~4

『カバードコール戦略』の具体的な損益パターンを知りたい。⇒P.5~7

『オプション取引』について、確認をしておきたい。⇒P.9~10

*1 『コール・オプション』についての詳しい説明は、P.9~10をご覧ください。
*2 次ページ以降は『オプションプレミアム』を『プレミアム』と表現します。

※上記はカバードコール戦略をわかりやすく簡易的に説明するためのもので、人物、会社名、価格等はすべて仮定のものであり、特定の対象を示したものではありません。また、カバードコール戦略のすべてを説明しているものではありません。
当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

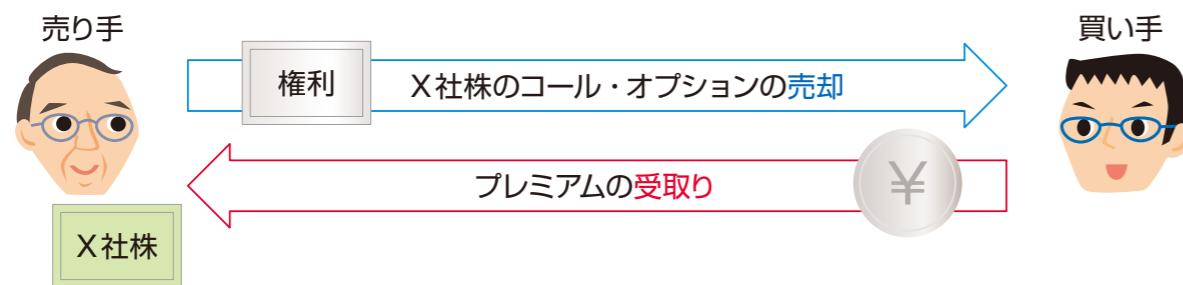
※裏表紙の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

カバードコール戦略

カバードコール戦略が有効な状況

- 一般に
1. 原資産の価格が先行きあまり変動しないと予想されるとき
 2. 原資産の若干の下落が予想されるとき
- などに有効な戦略といえます。

▶カバードコール戦略のイメージ図



売り手はX社株を保有しつつ、X社株のコール・オプションを売ることで、プレミアムを獲得します。

※上記はイメージ図であり、カバードコール戦略のすべてを説明しているものではありません。

▶カバードコール戦略の損益シミュレーション

前提

- 現在、X社株を300円で1株買い付け、保有
- X社株のコール・オプションを売却（権利行使価格：330円、プレミアム：5円、満期：3カ月後）

	ケース1 X社の株価が上昇 (権利行使価格以下の場合)	ケース2 X社の株価が下落 (現在の株価を下回った場合)	ケース3 X社の株価が大きく上昇 (権利行使価格を上回った場合)
3カ月後の株価	320円	280円	340円
原資産の値動き	株価の上昇(下落)	+20円	-20円
コール・オプションの売り	プレミアム収入	+5円	+5円
	オプション負担(値上がり分の放棄)		-10円
損益の合計	+25円	-15円	+35円

●原資産の値上がり益
●プレミアム収入
の両方を獲得できます。
⇒詳しくはP.5をご覧ください。

●原資産の値下がり損
●プレミアム収入
によって、原資産の値下がり
を軽減できます。
⇒詳しくはP.6をご覧ください。

●原資産の値上がり益
●プレミアム収入+オプション負担
(値上がり分の放棄)
によって、利益が一定額に
限定されます。
⇒詳しくはP.7をご覧ください。

(注) カバードコール戦略では、原資産価格がプレミアム収入を超えて値下がりした局面では、損失をこうむる場合があります。また、原資産価格が権利行使価格を超えて値上がりした局面では、原資産価格の上昇による収益の一部を享受できない場合があります。*「カバードコール戦略の損益シミュレーション」で使用している原資産価格、権利行使価格、プレミアム、満期までの期間は、カバードコール戦略の損益についてわかりやすく簡易的に説明するために用いた仮定のものであり、特定の資産、オプション等を示したものではありません。*上記は仮定の条件をもとに作成したシミュレーションであり、実際の損益を示したものではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。*上記のシミュレーションでは、原則として、権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用すること、1株単位での取引が可能であることを前提としています。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

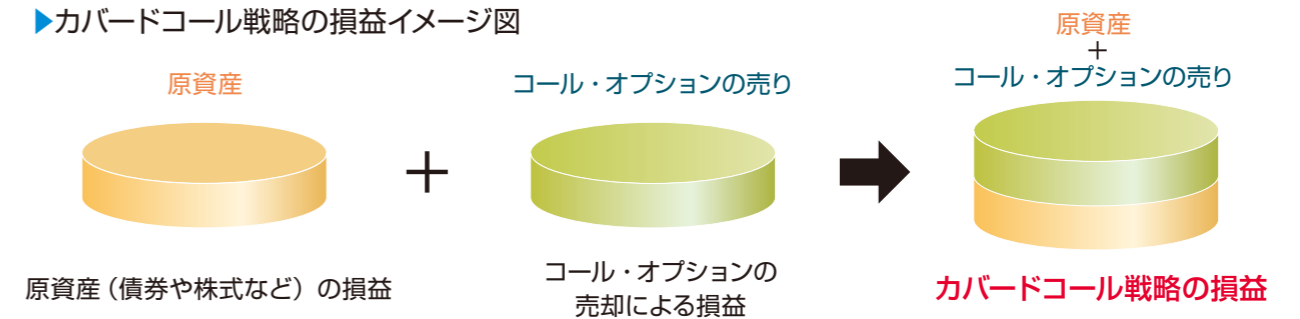
当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※裏表紙の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

カバードコール戦略とは？

- 原資産（債券や株式など）の保有（買い）
 - 原資産に対するコール・オプションの売り
- の2つの取引を同時に行なう戦略です。

▶カバードコール戦略の損益イメージ図



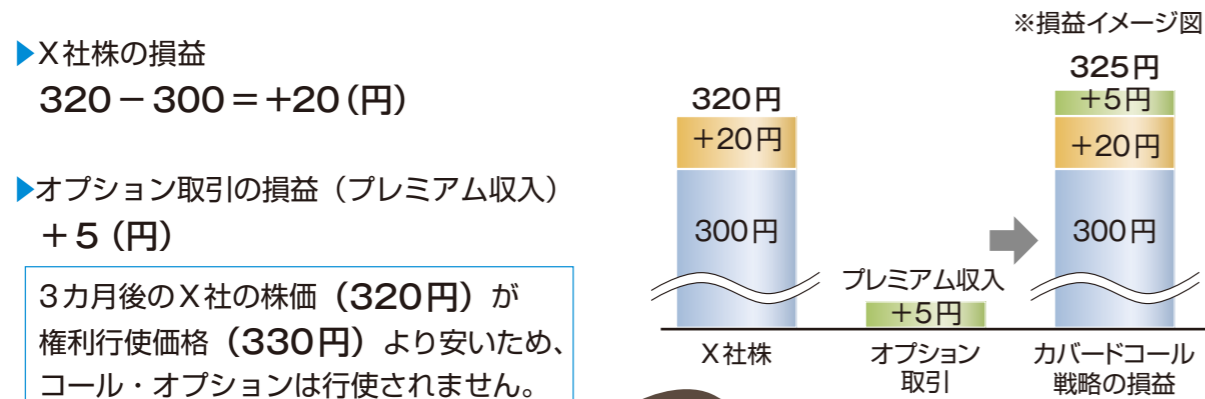
「原資産の保有（買い）」と「コール・オプションの売り」を組み合わせることによって、さらなる収益の獲得を目指します。

※上記はイメージ図であり、カバードコール戦略のすべてを説明しているものではありません。

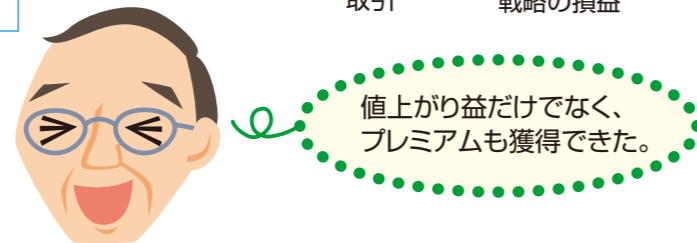
カバードコール戦略の損益シミュレーション

ケース1 満期日の原資産価格が上昇(権利行使価格以下の場合)

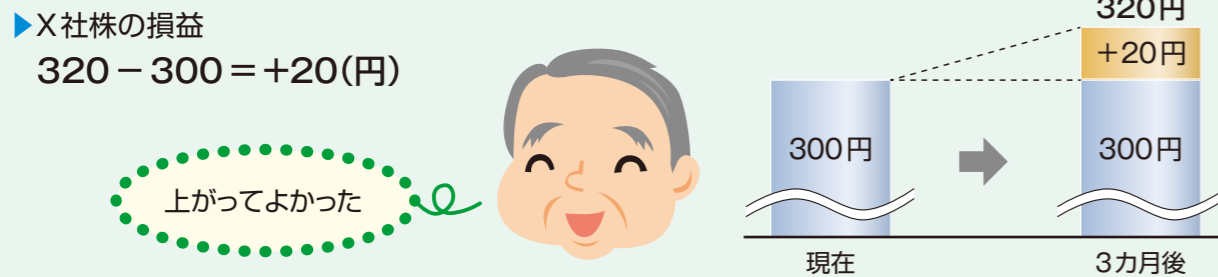
- 前提**
- 現在、X社株を300円で1株買い付け、保有
 - X社株のコール・オプションを売却(権利行使価格:330円、プレミアム:5円、満期:3カ月後)(ケース2、ケース3も同様)
 - 3カ月後のX社株が320円に値上がりした場合



▶カバードコール戦略の損益
 $+20 + 5 = 25$ (円)



ご参考 カバードコール戦略を行なわなかった場合の損益

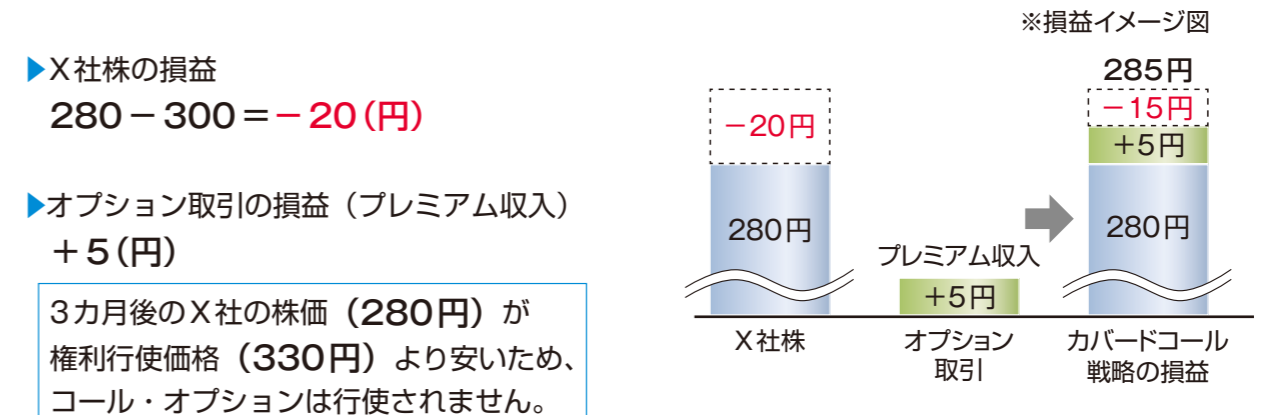


- POINT** 満期日の原資産価格が上昇(権利行使価格以下の場合)
- 原資産の値上がり益
 - プレミアム収入
- の両方を獲得できます。

カバードコール戦略の損益シミュレーション

ケース2 満期日の原資産価格が下落(現在の価格を下回った場合)

- 前提**
- ケース1 (P.5) と同様の条件
 - 3カ月後のX社株が280円に値下がりした場合



▶カバードコール戦略の損益
 $-20 + 5 = -15$ (円)



ご参考 カバードコール戦略を行なわなかった場合の損益



- POINT** 満期日の原資産価格が下落(現在の価格を下回った場合)
- 原資産の値下がり損
 - プレミアム収入
- によって、原資産の値下がり軽減できます。

(注) カバードコール戦略では、原資産価格がプレミアム収入を超えて値下がりした局面では、損失をこうむる場合があります。また、原資産価格が権利行使価格を超えて値上がりした局面では、原資産価格の上昇による収益の一部を享受できない場合があります。※「カバードコール戦略の損益シミュレーション」で使用している原資産価格、権利行使価格、プレミアム、満期までの期間は、カバードコール戦略の損益についてわかりやすく簡易的に説明するために用いた仮定のものであり、特定の資産、オプション等を示したものではありません。※上記は仮定の条件をもとに作成したシミュレーションであり、実際の損益を示したものではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。※上記のシミュレーションでは、原則として、権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用すること、1株単位での取引が可能であることを前提としています。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

産価格が権利行使価格を超えて値上がりした局面では、原資産価格の上昇による収益の一部を享受できない場合があります。※「カバードコール戦略の損益シミュレーション」で使用している原資産価格、権利行使価格、プレミアム、満期までの期間は、カバードコール戦略の損益についてわかりやすく簡易的に説明するために用いた仮定のものであり、特定の資産、オプション等を示したものではありません。※上記は仮定の条件をもとに作成したシミュレーションであり、実際の損益を示したものではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。※上記のシミュレーションでは、原則として、権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用すること、1株単位での取引が可能であることを前提としています。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※裏表紙の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

カバードコール戦略の損益シミュレーション

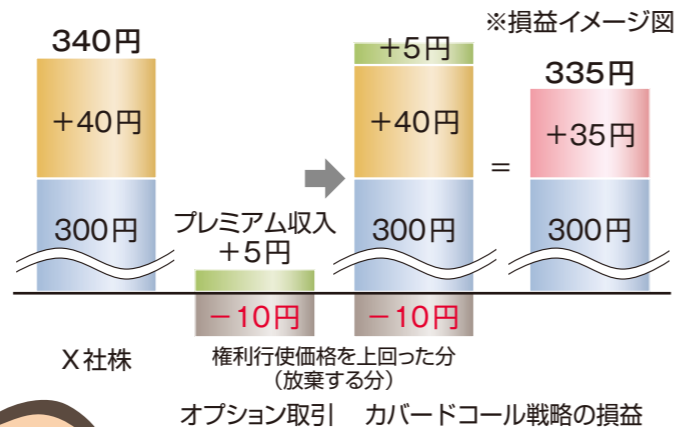
ケース3 満期日の原資産価格が大きく上昇(権利行使価格を上回った場合)

前提 ●ケース1 (P.5) と同様の条件

●3カ月後のX社株が340円に値上がりした場合

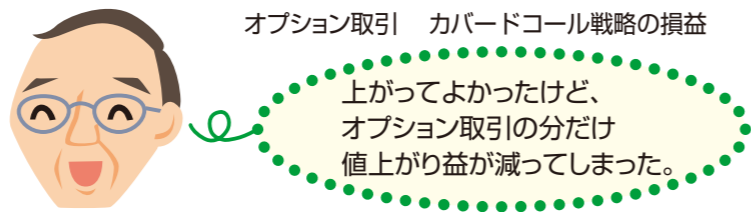
▶X社株の損益
 $340 - 300 = +40$ (円)

▶オプション取引の損益
 プレミアム収入: +5 (円)
 値上がり分の放棄: -10 (円)



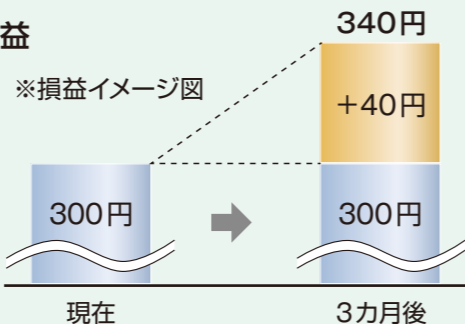
コール・オプションを行使されることによって、権利行使価格 (330円) で譲り渡すことになります。したがって、権利行使価格以上の値上がり分を放棄 (-10円) することになります。

▶カバードコール戦略の損益
 $+40 + 5 + (-10) = +35$ (円)



で参考 カバードコール戦略を行なわなかった場合の損益

▶X社株の損益
 $340 - 300 = +40$ (円)



POINT 満期日の原資産価格が大きく上昇 (権利行使価格を上回った場合)

- 原資産の値上がり益
- プレミアム収入 + オプション負担 (値上がり分の放棄)

よって、収益が一定額に限定されます。

(注) 満期日の原資産価格の上昇が大きいほど、「カバードコール戦略をとらなかった場合」との収益の差が大きくなります。

(注) カバードコール戦略では、原資産価格がプレミアム収入を超えて値下がりした局面では、損失をこうむる場合があります。また、原資産価格が権利行使価格を超えて値上がりした局面では、原資産価格の上昇による収益の一部を享受できない場合があります。※「カバードコール戦略の損益シミュレーション」で使用している原資産価格、権利行使価格、プレミアム、満期までの期間は、カバードコール戦略の損益についてわかりやすく簡易的に説明するために用いた仮定のものであり、特定の資産、オプション等を示したものではありません。※上記は仮定の条件のもとに作成したシミュレーションであり、実際の損益を示したものではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。※上記のシミュレーションでは、原則として、権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用すること、1株単位での取引が可能なることを前提としています。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

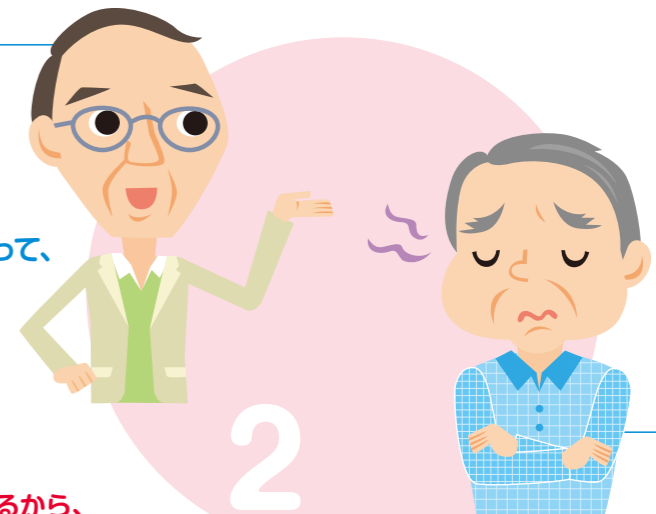
当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

まとめ

どうだい。「カバードコール戦略」について理解できたかい。

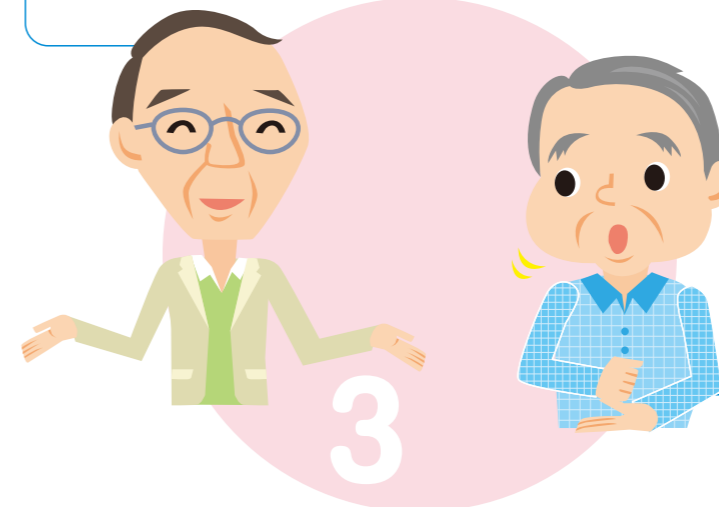


そのとおり。保有資産を売却したくない、もしくは売却できない場合などにも活用できるよ。「カバードコール戦略」によって、資産運用の選択肢を増やすことができるね。



最近は「カバードコール戦略」を組み入れた投資信託も増えてきているから、株式や債券だけでなく、REITなどに対しても「カバードコール戦略」が手軽にできるようになってきているよ。

でも、保有している資産それぞれに「カバードコール戦略」を組み入れるのは大変そうだなあ。



※上記はカバードコール戦略をわかりやすく簡易的に説明するためのもので、人物、会社名、価格等はすべて仮定のものであり、特定の対象を示したものではありません。また、カバードコール戦略のすべてを説明しているものではありません。

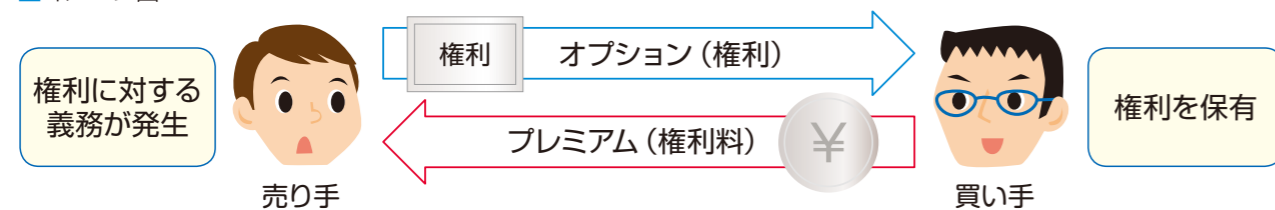
※裏表紙の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

オプションの基本

オプション取引とは？

- ▶オプションとは、「〇〇を買う(売る)権利」のことです。
商品そのものではなく権利を売買することが、オプション取引の特徴です。
- ▶オプション取引では、売り買いそれぞれの権利を売買することができます。
買う権利 …… コール・オプション
売る権利 …… プット・オプション

■イメージ図



※上記はイメージ図であり、オプション取引のすべてを説明しているものではありません。

- ▶オプションの売り手は、プレミアムを受け取る代わりに、買い手の権利に対する義務が発生します。
(一方、買い手はプレミアムを支払うことで権利を保有することができます)

プレミアムの変動要因

オプション取引では、「何を (原資産)」、「いくらで (権利行使価格)」、「いつ (満期日)」買うか売るかを決定します。
 プレミアムはこれらを含むさまざまな要因によって動くため、一定ではありません。

▶コール・オプションのプレミアム水準の主な決定要因

プレミアム水準の決定要因	原資産の変動率	権利行使価格	満期までの期間	金利
プレミアムの水準が 高くなる ケース	高い ↗	低い ↘	長い	高い ↗
プレミアムの水準が 低くなる ケース	低い ↘	高い ↗	短い	低い ↘

※プレミアム水準の決定要因は、上記に限定されるものではありません。

オプション取引のリスク

オプション取引における損失は「買い手」と「売り手」で大きく異なります。
 「買い手」の損失額：最大で支払ったプレミアム分の金額
 「売り手」の損失額：理論上、無限大

▶(例)コール・オプションの損益シミュレーション

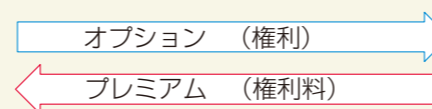
前提 X社株：300円、権利行使価格：330円、プレミアム：5円、満期：3カ月後
 X社株1株でのコール・オプション

ケース1 3カ月後、X社株：320円の時 (権利行使価格以下)



売り手 ⇨ 何もなし

損益：+5(円)



買い手 ⇨ 権利放棄

損益：-5(円)

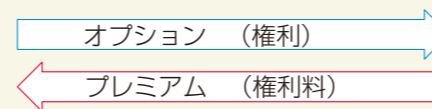


ケース2 3カ月後、X社株：340円の時 (権利行使価格より高い)



売り手 ⇨ 権利行使に応じなければならない

損益：5 - (340 - 330) = -5(円)



買い手 ⇨ 権利行使

損益：(340 - 330) - 5 = +5(円)



※3カ月後のX社株が高ければ高いほど、損失が増加します。

※3カ月後のX社株が高ければ高いほど、利益が増加します。

(注) コール・オプションの売り手は、原資産価格が権利行使価格を超えて値上がりし、値上がり幅がプレミアム収入を超えた場合、損失が無限に膨らむ可能性があります。
 ※「コール・オプションの損益シミュレーション」で使用している原資産価格、権利行使価格、プレミアム、満期までの期間は、コール・オプションの損益についてわかりやすく簡易的に説明するために用いた仮定のものであり、特定の資産、オプション等を示したものではありません。※上記は仮定の条件をもとに作成したシミュレーションであり、実際の損益を示したものではありません。また、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

※上記のシミュレーションでは、原則として、権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用すること、1株単位での取引が可能なることを前提としています。また、配当、税金等諸費用は考慮していません。

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※裏表紙の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。